

太田市自分ごと化会議 2020

第1回 議事概要

日時	2020年10月11日(日) 13時30分～16時30分
場所	太田行政センター 本陣ホール
コーディネーター	厚木市こども政策アドバイザー 小瀬村寿美子 構想日本 プロジェクトマネージャー 田中俊

凡例) コ：コーディネーター、委：委員、市：市職員

議事概要

■はじめに

- コ 自分ごと化会議を知っていたという人はいるか。
(挙手：0人)
- 事務局からの説明でもあったように、自分ごと化会議は、行政への一方的な要望を言う場ではないということをまずご理解いただきたい。
- 無作為に選ばれた方々とテーマについて意見交換することで、自分では何ができるのか、地域やコミュニティだったら何ができるのかをまず考えてほしい。そのうえでやはり行政や企業などがすべきことも出てくると思うが、それぞれの役割で何ができるのかとういことを「自分ごと」として考える場としたい。
- コ 今回のテーマは、「働きやすい街」であるが、働きやすく暮らしやすい街といった方がじっくりくるかもしれない。働くことと日常の暮らしをセットで考えていければと思う。

■自己紹介

(省略)

■理想の働き方と現実のギャップ

- コ 理想の働き方と現実のギャップを考えられればと思う。
- まずは、「仕事に打ち込みたい」、「仕事はそこそこに余暇を楽しみたい」、「子育て仕事を両立したい」など働き方に対する皆さんの理想を教えてください。

(キーワード：テレワーク)

- 委 自分の好きなことをやって、好きな時に休んで、お金がもらえる働き方が理想だが、それはかなり難しいと思う。コロナ禍でテレワークが増えて、以前と状況が変わってきた。新たな働き方とか、新たな資格とか、いま少し期待している。

委 働くうえで、仕事よりも、暮らしに重点を置きたいと思っている。
母親が難病で家からあまり離れられない家庭に育ったので、子供のころは、家族旅行とかに憧れがあった。テレワークなどは、病気のある人にとっても良いと思う。

委 パソコンでのテレワークについて、工場勤務など現場での仕事が多い太田市では馴染まないのではないか。
テレビでは、いい事例ばかりを紹介しがち。失敗事例はあまり紹介されない。

委 私の事務所でもテレワークをしているが、全員がテレワークをできるかという
とそうでもない。
17歳の息子がいるが、家庭を顧みずにながむしゃらに働いて、息子にしてやれなかったことが多い。私が息子にできなかったことが社員の反面教師になればよいと思っていて、会社に子供を連れてくれば、会社で子供の面倒を見ると伝えている。
自分たちで自分たちの責任の下で子供を見られる環境があるといいのだろうと思う。

委 3月から在宅勤務をしている。子供も巣立ち、主人も亡くなっているため、在宅での仕事も何の支障もなく、むしろ通勤などの無駄な時間が浮いてよかったですらに思う。昔、子育てをしながら働いていた時にも、在宅の仕事だったらよかったと思うことはたくさんあった。一方で、子どもが小さい家庭は、子どもが騒いだりなど、在宅勤務の難しさもあるのだろうと思う。

委 退職後、ハローワークで、在宅ワークのできる仕事を探したが、太田市にはなかなかなかった。特に女性だと、販売やサービス業など、現場でする仕事が多い。

(キーワード：子育てを夫に任せる後ろめたさ、女性の再就職へのかなり大きな一歩)

委 自分に任せられた仕事があるなら働きたいし、一方で子どもの世話が疎かになるのも嫌。両方とも実現したいというのが本音だが、「子供の迎えを夫に行ってもらおう」ということに後ろめたさがある。
ファミリーサポートセンターの利用もありかなとは思う。

委 子どもができる前は、夜勤をしていて、それでも問題なかったが、子供ができたらガラッと変わった。とても夜勤できる環境ではなかったが、育休中に、会社か

ら人手が足りず戻ってきてほしいと連絡があって戻ったが、子供が熱出したときなど大変だった。帰りたいけど、仕事が残っていて帰れないとか。お年寄りとか元気な方に手伝ってもらえたらありがたいなと思う。

委 女性の再就職はかなり難しいという印象。一歩というか「かなり大きな一歩」が必要。

コ 子育て世帯への支援というと、常時ではないけれど、何かあったときにちょっと助けてくれる存在は必要かもしれない。

委 まだ高校生なので、現実を知らないが、理想の働き方は、仕事のできる女性。欲を言えば、結婚もして両立もしたいが、皆さんの話を聞いていると難しそうにも思う。

コ 女性の社会進出という言葉があるが、男性の家庭進出という言葉もある。

委 私に限らずだと思うが、男性も子供の生活に密着したいと思っている。現状、妻からすると、私は家庭に関わっていないとみなされているが、子供と一緒にいる時間だとは思う。

委 コロナ禍で、会社はいつなくなるか分からないと感じた。会社がなくならないまでも、いつクビを切られるかわからない。その時に、自分でなにかできることもないし、女性向けの就労支援だけでなく、男性向けの就労支援もあっていいのではないかと思う。

(キーワード：交流、刺激、変化)

委 働き方の理想ということを考えると、一つの仕事を何十年もやっていると飽きる。たまには変化が欲しい。靴を買ったり、服を買ったりすることもその一例だと思う。

グラフィックデザインの仕事をしているが、デザイナーやフォトグラファーなどいろいろな人に出会い、話を聞くととても刺激になる。学校の先生など、職種によっては閉鎖的な環境も結構多いと思う。

変化というか、「交流」が重要ではないか。

市内で考えても、スバルの新社屋を外から見ているとカッコよくて入ってみたいなと思うし、市役所の屋上にあるヘリポートで何かイベントができれば面白

いのではないかと思う。

コ 働く場所を違う視点で見るとするのは面白いかもしれない。
市で異業種交流のような場を設けている事例はあるだろうか。

市 市が実施しているものは特にないが、商工会議所のつながりや、業種ごとの組合など民間主体の交流の場はあると思う。

(キーワード：高齢者の働き方)

委 今はまだ高校生で実感がないが、少子高齢化で自分たちが働くときには何歳が定年で、何歳まで働かなくてはいけないのかと漠然とした不安はある。

委 母と兄は公務員、お前も公務員になれと言われていたが、「起きて半畳、寝て一畳、偉くなっても二畳半」を地で行きたいと思ってここまで来た。あんなおじいちゃん、おばあちゃんの働き方もあるんだと若い人に思ってもらえるといいかなとは思う。

(キーワード：今と昔の価値観の違い)

委 今の時代と私たちが働いていた時代で、働き方や生活に対する価値観が違っていると感じている。

昔は、現役時代はがむしゃらに働いて、定年になったらようやく家を建てて余暇を楽しむという考え方が主流だったが、皆さんの話を聞いていて、今は若いうちに家も作り、遊びも生活も子供の教育も一緒にたになっているように感じた。

■まとめ

- ・ 他の街に比べると働く場所も多くて収入も高い太田の現状をこのままで良いと思っているのかと思いきや、話を聞いていると、思いのほか新しい働き方とか、働き方に対する新しい価値観を理想とされているように感じられる。
- ・ 働く場所や働き方について、市の現状として働く場所は豊富にあるという説明があった一方で、年齢が上になると中々働く場所がないという課題や、非正規の働く環境には課題がありそう。
- ・ 子育てについて、いま太田市が実施している子育て支援、働くための支援への評価は高いと感じている人が多い一方で、「子どもの送り迎えを女性がやっていないと後ろめたさを感じる」という意見があり、これはおそらく個人の問題というよりも、周り

の空気感というか、太田市全体の空気感ではないか。

- ・ 昔は、定年まで働いてそれ以降が余暇という価値観だったり、男性が仕事で女性が家事育児のように分けて考えていたものが、今は仕事と余暇、男性と女性を一緒になって考える方が理想に近い。